

宿泊クーポン券

川口 ひろ子

M子と二人で温泉巡りを始めたのは二〇年程前だ。初めは彼女の運転で秩父や奥多摩方面の鉱泉を訪ねた。数年して運転免許を返上したM子は、伊勢丹が販売する「宿泊クーポン券」を使った温泉巡りを提案してきた。平日限定、一万円のクーポン券で仙台から神戸まで五十六軒の宿に一泊できる。早速箱根の宿を試してみた結果、極上の温泉と贅を尽くしたお料理に大満足、以降現在迄二人でこの小旅行を楽しんでいる。

昨年春に発令されたコロナ緊急事態宣言により、伊豆長岡温泉への予定はキャンセルとなった。暫くは感染者数の減少を願って様子を見たが思うようには事は運ばず、ついにクーポン券期限切れの日が迫ってきた。「たった一万、されど一万」無駄使いは出来ない。儉しいことにかけては価値観が一致するM子と私、必死で探した代替え案は都内のレストランでの二回のランチ会だ。

第一回目は日比谷のレストラン「ハイフンテラス」。国産の素材のみ使用、日本人の好みに調理されたという広東料理で、プール茶と共に楽しむ飲茶コースだ。海老とホタテの焼売以下、白身魚のあんかけ、固く煮詰められた糊の様なお粥他、どれも薄味で柔らかい。「上等の病人食」が実感であるが大変美味しくいただいた。

第二回目のフランス料理は皇居お堀端に近いレストラン「ロゼット」。ランチとは言えドレスコードも要求される豪華な造りの店だ。あか抜けたスーツ姿の男性にエスコートされ席に着く。ヨーロッパで修業を積んだという料理長によって作られたフランス料理は、意外にもバターは控えめでオリーブオイルが主体だ。凝ったソースを絡めていただく魚や肉、シャキシャキの野菜、どれも日本人の繊細な好みを知り尽くしましたという感じの創作料理。私の胃の腑にすんなりと納まって心地よい。

これでクーポン券は全て使い切った。達成感を楽しみながら春浅い丸の内をそぞろ歩く。さて、次はどのような旅が？ M子さん期待しています。